

## [第644回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、会議室での審議を止め、委員全員に書面参加で対応してもらった。書面提出の期日を令和4年2月17日（木）とした。

2. 開催場所 上記参照

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

※ 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため書面参加で対応

書面参加の総数 6名

書面参加の委員氏名

成瀬 國晴	河内 厚郎
たつみ 都志	鎌田 雅子
萩原 章男	内田 透

4. 議題

1) 番組審議（書面参加） 『いいね！イマうた 真田ナオキです』

2) その他

## 5. 議 事 の 概 要

### 議題 1) 『いいね！イマうた 真田ナオキです』

について、番組の企画意図・内容の資料をご覧のうえ、番組を聴取してもらい、書面でご意見を提出してもらった。

## 6. 審 議 内 容

### 社 側 <番組資料を送付>

『いいね！イマうた 真田ナオキです』（毎週火曜日 21:00～22:00）は、イマをときめく新人歌手がトークと共に、イマ聴いて欲しい演歌・歌謡曲の新曲をお届けする 60 分。

2018 年 4 月からスタートし、2019 年に放送時間を拡大。

2021 年秋より火曜日のパーソナリティーは、2020 年第 62 回日本レコード大賞 最優秀新人賞を受賞した真田ナオキが担当。吉幾三を師匠に持ち、キャッチフレーズは『恋する確率 100%！ノックアウトボイス』

とにかく人に聞いてもらえる声を作りたい、この一心で人気のない海辺で喉をつぶし、強い歌声にする日々を送った。そうして作り上げた力強い歌と、少年のような無邪気なトーク、そして豪快な笑い声と感情豊かお送りしています。また、関西でのラジオレギュラーは初となり、コロナ禍でコンサートやイベントが中止・延期となっているからこそ、ラジオを通じ応援してくれるファンとの繋がりになる場所を目指しています。

番組内には演歌・歌謡曲の新曲を紹介するコーナー（25分程度）もあり月替わりでコメントゲストも登場しています。

### <各委員の書面でのご意見>

### 委 員

真田さんの声は、「ノックアウトボイス」のキャッチフレーズにたがわず、高音だけれども聴きやすい。ご本人は番組内のトークで「嘔む」ことを自虐的にネタにしておられましたが、ガハハ笑いも含めてネガティブな印象はなく、「明日で32歳になる」という年齢通りの若々しさを感じる。ただ、いささか素人っぽさが抜けない感じも。テンポなのか、間なのか。ファンにはそこがかえって初々しくていいのかもしれないが。ホームページによると、真田さんは他局でも15分の番組コーナーなどを持っておられるようだが、当番組は自身がメインの1時間番組で、昨年秋から週に1

回のパーソナリティーを始められたばかり。回を重ねることで、よりリスナーを引き込んでいくようなトークが増えていくものと期待する。

コーナーでは、「ナオキのコレに惚れた！」の師匠・吉幾三さんにまつわる話が印象的だった。忘年会で弟子が気兼ねなくお年玉を受け取れるよう、カラオケ機を持ち込んで一人ずつ歌わせ祝儀として渡す心遣い、自分の夢のごとく「ナオキにはこうなってほしい」と熱く語る優しさ。時代の変化とともに失われがちな師弟の愛、吉さんの人柄に触れるようで、興味深く聴き入ると同時に、真田さんの「伝える力」も感じた。

一方、リスナーからのメッセージを紹介するコーナーでは、この日は2通ともファンの感想、応援で、やや内輪な感じを受けた。真田さんに質問を投げかける内容のメッセージをチョイスすれば、真田さんをまだよく知らないリスナーにも伝わりやすいのではないかと思う。

もちろん、番組の背骨となっている「歌」は、どれもいい。日本レコード大賞最優秀新人賞を受賞した真田さんの実力はさすが。演歌好き、歌謡曲好きはリラックスした気分で楽しめたのではないか。ただ、個人的には「いいね！イマうた コノウた」のコーナーだけ担当が別の方なのは少し気になった。可能なら、真田さんが、紹介する曲の魅力やちょっとしたエピソードを添えるような形にできればと感じる。

委員 真田ナオキさんの低音ハスキーボイスは気持ちよく聞ける。話し口には感情がこもるが、例えば、師匠の吉幾三さんとお姉さんでは、それぞれ違いを出しつつ、豊かな人間関係が表現されており、気持ちのいいトークになっている。作りすぎず自然にエピソードを話すご本人の人柄に多くの方が好意を持つのではないか。演歌が好きで人にとって、すべてが気持ちよく聞ける番組だと思う。自分で笑ってトークを盛り上げることには賛否があると思うが、トークのパターンとしていい流れになっていると感じた。

「いいね！イマうた コノウた」は担当も替わり、全体の半分の時間を占める。真田ナオキさんのエネルギー溢れる番組とは全くの別物で、コーナーとして挿入するには、タイミングや内容をさらに練っていく必要があると考える。

委員 今回の番組については、ターゲットは当然真田ナオキさんのファンであり、演歌が好きな方々かと思うので、申し分ない番組だと思う。真田さんの語り口調も爽やかで楽しく、師匠である吉幾三さんの話もあって楽しく聞かせていただいた。番組では「師匠」としかおっしゃっていませんでしたが、これはちゃんと「吉幾三」とお名前を出された方が親切だと思います。

う。

一点気になったのが途中で入る「いいね！イマうた コノウた」のコーナーで、女性の方が急に登場されたが、演歌歌手なのかアナウンサーなのか、どういう立場の方なのかがわからなかったのが気になった。色々な事情があるとは思いますが、このコーナーも真田ナオキさんで進行することは難しいのだろうか？せめて自己紹介が必要だったかと思う。

真田さんは、実際の見え目とは裏腹にドスの効いたハスキーボイスで迫力ある歌声と、優しい語り口調のギャップが楽しく、とっても魅力的なパーソナリティだと思う。

いつかスペシャルゲストとして吉幾三さんが登場してくれたらと期待せずにはられない。

#### 委員

ハスキーボイスで「無邪気なトーク」と評される、少年っぽい雰囲気と茶目売り物にしているのだろうが、ファン以外は「豪快な笑い声」も含めて、しらける。

構成がよく分からない。真田ナオキの番組と思いきや、30分弱の尺の中で、7分程度の「いいね！イマうた コノウた」という「コーナー」なるものが入っている。その中にまた「12月のコメントゲスト」なる別のキャラクターが入っている。

いわば、腹の中に二重のカプセルが入っているみたいで、消化しにくい。しかも、外側のナオキの外枠が二重のカプセルに全く触れない、というのも意味不明。

真田ナオキのトークの中身については、「師匠」というだけで、誰が「師匠」なのか、まったく分からない。

ずーっと聞いている人や真田ナオキのファンなら言わなくても分かるのだろうが、初めて聞いた人、たまたま聞いた人は「師匠」が誰か分からず（北島三郎か、吉幾三というあたりだろうとは、なんとかわかる程度）イメージが作りにくかった。

やはりここは一度でいいから「吉幾三師匠が・・・」と具体的な名前を出すべきだろうと思った。

「いいね！イマうた コノ歌」で選んだ一曲が、何故選ばれたのか、オススメの言葉がない。

コメントゲストが何故突然出るのか、またかなりプライベートな話が無理やり挿入されるのかがわからない。曲のデモが目的なのか？

結論としては、要は、演歌大好き人間だけターゲットにして、演歌の新曲、

新人(?) 演歌歌手が紹介されれば、それでいいのか?

委員 真田ナオキの「マリア」のような歌は、演歌というより演歌ふうミュージカル調というべきか。この番組を聞く限りにおいては、喋りよりも歌のほうが(カンツォーネのように明るくて)印象に残った。トークはあまり面白くない。力強い歌、無邪気なトーク、豪快な笑い声、感情豊かにお送りする、とあるが、笑い方が唐突で、不自然な印象を受けた。

師匠・吉幾三のようなしみじみとした味わい、人生の滋味に欠ける。しかし、歯切れはよく、YOUTUBE で顔を見るとイケメンで、演歌のプリンスといった趣はある。師匠の夢がナオキのこと、というのにはホロリとさせられた。

藤原浩「命の限り (ニューバージョン)」は平凡、市川由紀乃の「秘桜」は朗々として上手い。

吉幾三が笑福亭鶴瓶のためにつくった曲「姉ちゃんへ」は、真田ナオキに個性が感じられなかった。吉幾三が歌ったらよかったのでは、と思われた。鶴瓶のためにつくった曲、の意味合いがもっと詳しく知りたかった。

「イマをときめく新人歌手がトークと共に、イマ聴いて欲しい演歌歌謡曲の新曲をお届けする」番組にはなっているが、全体に散漫な印象であった。気楽に聴ける番組ではあった。

委員 21時～22時の時間帯にふさわしい歌謡番組です。

出演者・真田ナオキさんは、声がよく自然体で嫌味がない、聴きやすい喋りだから落ち着いて聴けた。笑い声の豪快なところは師匠・吉幾三の影響だからか番組が明るい。

真田が歌う曲も声の高さは違うが師匠に似た感じのもので、わたしが愛唱する「雪国」、「酒よ」や「俺らあ東京さ行くだ」と同根にあって、ど演歌とは違う暖かさを感じた。

「ナオキのコレに惚れた」は、普段みられない師匠の人間性がわかって師弟の体温が伝わってくる。

「いいね! イマうた コノウタ」は新曲紹介のコーナーで全曲聴くことはできなかったがあってもいいと思う。その方が真田が生きると感じた。

囁む話のあと、曲紹介で発売中というのを囁んだのは愛嬌だった。好感度を持った番組だった。

社 側 書面での貴重なご意見、ありがとうございました。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

な し

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第644回大阪放送番組審議会議事録の要約)  
「愛してラジオ大阪」 内で放送  
放送日 令和4年 3月 30日 (水) 23時20分～23時30分
- ・「番組審議会だより」 (第644回大阪放送番組審議会議事録)  
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。